

平成26年度 第2回学校関係者評価委員会議事録

会議名：第2回学校関係者評価委員会

期 日：平成26年11月27日（木） 10：45 ～ 12：00

場 所：専門学校 新国際福祉カレッジ

出席者：松下やえ子委員（千葉県介護福祉士会・城西国際大学）、
戸田 敦夫委員（稲毛グループホーム）、本校教員（岩出、大竹）

欠席者：酒井 丈治委員

議 題

I 協議事項

1 平成25年自己評価について

① 説明（大竹）

昨年度の自己評価をもとに、今年度の評価案を作成してみた。本校の教員は全員目を通していているが、特に意見はなかった。委員の皆さんのご意見をいただきたい。

② 委員の意見

・社会貢献、地域貢献の個所で、「不十分である」とされている。提案の一つとして、27年度から介護保険の改正で、訪問介護が5類型になり、サービスの提供体系も5つになる。従来の介護保険による予防給付やそれを少し緩和した基準でのデイサービスに加え、現在国が考えている「初任者研修」とは別のもっと取得しやすい資格も、サービス大系の中に組み込まれてくる。地域包括支援センターと連携して、地域のお元気高齢者の方々に「これからは、皆さんが介護の担い手なんですよ。」と働きかけ、設備もあり先生方もいるわけだから、介護技術講習会等々として入門的な内容の講座を年間計画に位置付けて実施してみたらいいのではないかと。NPOで訪問活動する人や、サロン活動をするような人たちに、訪問活動地域包括支援センターと連携して、ちょっとした介護技術を指導することで地域に貢献するのはいいことではないかと。

・「うちのじいちゃん、ばあちゃんも、元気なうちは勉強して協力していたよ」と子どもたちが思うことで、学校の知名度を上げることもできる。将来的な学生獲得にもつながると思う。これからは、お元気高齢者を活用していかなければならない。趣味活動であって、国が図式化したような地域包括ケアサービスに取り込まれても困るというのがお元気高齢者の方々の本音ではあると思う。1回や2回の講座であっても、介護に関わる方が、正しい知識を持ってかかわることが大事なので、自分の体をこわしたり、危険を伴うこともあるので、教育機関として知名度を広げながら、その使命としての地域貢献を実践していくことは大事だと思う。

① 説明（大竹）

これから、小野先生を中心に社協関係等々への働きかけ・連携を築いていきたい。

2 本校の将来構想について

① 説明（大竹）

11月段階での応募状況は、現場実践コースへの応募が多くなっているが、定員を充足するには程遠い数字である。高校生の応募見通しについては、過度の期待はできない。これからは、社会人、子育てを終えた主婦層、留学生への働きかけを考えていく必要がある。家庭、地域から応募者を発掘することも考えたい。

具体的には、ハローワーク千葉、千葉南、成田に、ビラの配架をお願いしたり、スーパー等で、介護の相談会を実施してみたらどうかといった案も出ている。駅前チラシを配布したり、各戸へのポスティング等々、いろいろアイデアは出ている。また、施設で、資格がないまま働いている職員の方が、本校の実践コースへの応募する可能性についてのマーケティングも行ったが、施設側としては、週3日、本校に通学させるだけの人的余裕はないとのことであった。

- ① 委員の意見
 - ・最近、孫の進路ということで、じじばばがお金を出すケースもあるようだ。そういった方にチラシを配布するのもいいのではないか。八千代の社協にいたとき、イトーヨーカ堂は協力的だった。村上のイトーヨーカ堂1階のフロアを借りて、介護講座ミニ講座を実施したことがある。ミニ講座は学生がやった方がよい。
- 3 ファカルティ・ディベロップメント研修としての公開授業について

- ① 説明 (大竹)

- ・公開授業を、ファカルティ・ディベロップメント研修として考えてみたらどうか。福祉コースの設置されている高校の先生や施設で働く方々、学校外部の方に授業を見て、指摘してもらうことがあってもいいのではないかと考えていたが、この委員会に先立って行われた教育課程編成委員会では、難しいとの指摘もあった。これがダメであれば、また別のファカルティ・ディベロップメント研修を考えなければならぬが。また、特定分野で造詣が深い方に、授業をやってもらうという研修もあると考えるのだが。

- ② 委員の意見

- ・施設から授業を見に行くことは、人手不足で困難ではないか。
- ・先生方も施設の方も忙しい、だったら、興味のある人に授業を見てもらって、授業の感想等を聞いてみるのもいいかもしれない。
- ・介護福祉士会で研修に熱心な方は休んでも来る。施設に案内を出しても、人手がないからダメということになるが、自分の出たい研修があれば、関心のある人はそこに休みをあわせて出てきます。前もって会の方に案内いただければ、そこに休みをあわせて参加してくれるかもしれない。授業を見てもらって、こんなところ気を付けてもらえれば、現場で即戦力になりうますとか、互いにディスカッションしたりとか、いい面があるのではないか。外部に授業を公表することで緊張感をもったり、意見を聞いて授業の改善につなげるという点では、いい発案ではないか。今年度でなくても、実施できる時には協力したい。介護福祉士会から介養協へと広がっていけばいい。

- ① 説明 (大竹)

特定分野で造詣が深い方に、授業をやってもらうという研修も考えられるが。

- ② 委員の意見

- ・介護福祉士会の中で、講師養成研修をやっているが、秀でていて参考になるような授業となると、ちょっと。関心のある人はいるが。

- ① 説明 (大竹)

時間がかかるかもしれないが、実施できるよう準備していきたい。

- ② 委員の意見

- ・本当にやる気なら、介護福祉士会にチラシを配ってもいいですよ。

II 報告事項

- 1 留学生受入れについて

- ・留学生の受け入れについては、前回報告してから、二転三転してきた。制度改善で、就労ビザが発給される見通しとなったため、留学生を受け入れる準備をしていきたい。某日本語学校双葉を訪問して見通しを聞いたが、在学中の学生に関しては、国を出る段階で就労ビザの発給が制度上なかったことから応募につながることは考えられないとのことであった。ただ、これから留学してくる学生については、応募の可能性があるとのことであった。

- 2 2コース制について

- ・社会福祉主事併修コースより現場実践コースへの応募が多い。

- 3 教育訓練給付制度申請について

- ・厚生労働省に教育訓練給付制度の申請していたが、条件がクリアできなかったため、申請を取り下げるようになった。次年度、改めて申請したい。

Ⅲ その他

現場施設や養成校での現状を憂う声

- ・ 18歳人口が少ないこと、親が介護職は給料が安くて食べていけないとか、高校の進路の先生にもそのような懸念を抱く先生もいるやに聞く。意外とどこかで介護に進むことをストップさせる力がかかっている。人手不足と言いつつも給料が安いということが浸透しちゃっている面もある。
- ・ 養成校への応募者減、施設での人材不足、介護報酬の問題、社会福祉法人の貯めこみ、キャリアパス、ケアマネと認定介護福祉士の問題等々。
- ・ 将来的な人生設計の見通しが立たなければ、少ない18歳人口が養成校に入ってくることは先細りとなる。もっと明るい、希望的観測ができないかと思うが。

平成26年11月27日

記録者責任者 大竹 頼之